

透析患者の定時薬内服率は医療者の予測より高い

医療法人 衆和会 長崎腎病院

○山下万紀子 畠山今日子 中島さゆり 江藤りか 川口利江 川口唯 吉野
秀章 小串百合子 草刈祥子 船越 哲 橋口純一郎 原田孝司

【背景・目的】

透析患者の処方量が多いものの、実際の患者内服状況については不明な部分が多い。今回我々は、薬剤ごとに医療者が予測する内服率（以下M）と、患者自己申告による内服率（以下P）の差異（P/M）について調査した。

【対象・方法】

当院外来透析患者で自力で内服可能な 272 名を対象に、透析関連の各種薬剤につき、医療者の予測と患者内服率を比較した。

【結果】

平均年齢 68.1 歳、平均透析歴 8.8 年、平均処方数 10.6 剤。P/M の大きい（医療者の予測より患者内服率が高い）薬剤順位は、①シナカルセト塩酸塩；1.61②活性型ビタミン D 製剤；1.57③リン吸着剤；1.35④降圧剤；1.22⑤カリウム抑制剤；1.19⑥消化性潰瘍用剤；1.19⑦催眠鎮静剤；1.14 であった。

【考察】

今回の調査は患者の自己申告であるものの、医療者が内服負担を懸念する薬剤（例：リン吸着剤）であっても内服率は高く、服薬・食事指導の指標となり得ると思われた。